

白バラ通信

No.17

益川敏英先生講演会(5月10日)から

本会が準備してきた益川先生をお招きしての講演会「トップクオークの発見—学問の喜びと科学者の社会的責任」は、5月10日、六甲台講堂で開催されました。雨の降る悪条件でしたが、学外からの市民を含め教職員・学生約500名が参加し熱心に聞き入っていました。益川先生は、主に、科学の在り方や科学者の社会的責任と平和を守る運動について、ご自身の体験談をもとにユーモアをまじえ、1時間半にわたり熱く語られました。



益川先生講演内容

まとめ：尼川 大作(白バラ通信編集担当)

科学者運動参加へのいきさつ

私(益川先生)が坂田昌一先生の門下に入ったころはビキニ環礁水爆実験の反対運動の盛んな頃だった。私は先生たちの運動のお手伝いでガリ版切りや封筒詰めをしたていど。「9条科学者の会」も参加しませんかとの誘いを受け、「後から付いていくくらいで」との気持ちだったが、昨年1月ごろから考えが変わってきた。広島で被爆した先輩など悲惨極まりない体験をもつ方と比べて自分の体験は微々たるものだが、実体験を語れる最後の世代になったことに思いが至ったからである。

幼年—青年時代

5歳のとき空襲にあった。当時家具工場をやっていた私の家は名古屋市の高射砲陣地のそばにあり、B29からの焼夷弾が2階の瓦を突き破って入ってきた、幸い不発弾だったが、しかしあたりの家はみな焼け落ちた。あとは親にリヤカーに乗せられ逃げ惑った。その時のことがいくつかの鮮明なスチール写真のように記憶にある。

小学校は5月に入りやっと入学式。校舎は鉄工所跡や兵舎跡の仮住まい。焼け野原を銭湯に通う道すがら、父親が理科的なことを話してくれた。父親は電気技師になりたくて通信教育を受けていたが、尋常小学校出でサイン・コサインなどが難しくて苦勞していた。得た知識を、教育というより自慢したかったのか、益川少年相手に問いかけた。「月食はなぜ毎月は起こらないか?」とか、「自動ドアがロックされる原理」などクイズみたいに出しては、答えを二つの軌道面のずれやテコの原理などから詳しく解説してくれた。

このように「変てこな知識」はあったが、学校の勉強はせず学業は芳しい方でなかった。4年のとき、当時始まったグループ研究授業などでの調べ物で土地の図書館を知り、そこから本の虫になって「立ち直るきっかけ」となった。

高校では、古本屋巡りをするようになり、数学の本などを漁るのが楽しみだった。名古屋大学に入った時の最初の授業は数学の「解析学」で、クラスの新顔の学生たちの前で私が先生に高度な質問をしたところ、次の時間に、私宛てに同じクラスの学生から数学難問6題付きの「果たし状」が来たということもあった。このころから学友と侃々諤々の議論をしたり輪読をしたりで日々を過ごした。

60年安保闘争のころは、自治会などで団地に署名活動に入ったり、核問題での講師として住民運動の学習会に呼ばれたりした。「勉強ばかりするのは男じゃない」との風潮が当時あり、核問題・平和運動に関わった。しかし本格的に関わるようになったのは、最近のこと。

憲法9条の危機を感じる。

ソマリアに自衛隊が出て行ったが機関砲を撃てないことが論議されたことがあった。また数年前の東シナ海不審船発砲・自爆事件があった。戦争をしようとする勢力が憲法9条により結局交戦権がないことに苛立ち、憲法9条を変えたがっている。人種差別をなくすということで「一部改憲を」といわれたら、私もつい「賛成」と言うかも。しかし正面から「9条を変えるか」という提起は易々とはいくまい。持ち出せば自分たちが負けるという思いをさせるよう努力すべき。我々にはその力がある、ということなど9条京都の会で話したことがある。

一人ひとりの人間にはずるいところがあったりして必ずしも好きではないが、集団としての人間は素晴らしい。信頼に足るものだ。最近、「戦争はあと200年でなくせる」と言ったら仲間からバカにされたが、確信している。歴史は100年単位でみるべき。太平洋戦争後、公然とした植民地は姿を消した。また、米国でオバマ氏のように黒人が大統領になる時代だ。60年代ころまで黒人差別が激しかったことを思うと大きな変化。植民地はだめ、人種差別はだめとの価値観が定着してきている。揺れ戻しもあるが「価値観の定着したものは必ず実現する！」との力強い信念がある。

「科学者の社会的責任」について

科学者は平和運動に腰が重い。放っておくと国家の動員に取り込まれていきやすい部分も。ベトナム戦争時の米国ジェーソン機関の例がある。科学者は取り込まれると反対しにくい。

1954年のビキニ環礁水爆実験は大事件で、日本でも漁船が死の灰を浴び、反対運動が巻き起ったが、実態がつかめてなかった。その時、放射能化学分析をしていた三宅氏が「死の灰」を調べ、汚い水爆であることを告発した。科学者がその専門を通して社会問題に関わった。しかしこの例のようなことだけが科学者の社会的責任ではない。70年代、高層住宅の建設で電波が反射し、テレビ画像が二重になって映る電波ゴースト問題があり住民運動が起きた。電波を吸収する磁石粉末を混ぜた塗料が開発され問題は収まった。ところが10年ほどたって米国ステルス戦闘機（レーダに検知されにくい）にこの技術が応用された。戦争を始める道具に使われるとは塗料開発者の予想を超えたことだった。

科学者はその専門分野のことに関しては危険性が理解できる。反対すべき時は広く世間に知らせるべきだ。その人にも子や孫がいるはず。科学者は放っておいたらなかなか反対しない。彼らを運動に引っ張り出すのが重要。私がこのように「アクの道」にひきこまれたように！ぜひ新しい人たちに参加してもらい一緒に平和のことを真剣に考えていきたい。

質問コーナー

<Q1>先生がもし当時の米国人で、物理学者であると仮定したら、原爆開発のマンハッタン計画に参加したか否か。またその理由は何ですか。

<A1>戦争当時、欧州出身の進歩的学者がナチによる原爆実用化を恐れ原爆開発を米国に進言したいきさつがあった。彼らは戦後の核の国際的管理まで考えていたが、ソ連を恐れる米国により無視され米国の原爆独占となった。その後、ソ連の核開発が追いつき、ヒステリーに陥った米国で赤狩りや核物理学者オッペンハイマー氏の冤罪事件などが吹き荒れるに至った。科学とはそんなもの。結局は政治の問題である。戦争の政府を作るか作らないか。原爆を作るか作らないかの選択は市民の側にある。科学者も専門家としては限界があるが、一市民として自分の知識を役立てることはできるでしょう。

<Q2>私は院生です。私も理論を学んでいるが、社会科学の分野で自分が体験できないようなことで、血の出るようなモデルを作るにはどのようにすればよいとお考えか。

<A2>私は唯物論者。事実と歴史的なことを重視しそこから出発する。巻きこまれたものがいろいろあるから、まず抽象化を試みる。ピュアなものにすると本質的なものが見える。しかしモデルはあくまでモデルなので、それを現実の世界に持ち込む。これを繰り返すことで、真実の世界に近づける。これをアブストラクション（抽出）ーコレクション（修正）と私は言ってます。

会場アンケートから（感想など）

◎70代・市民…物理学者であることは歴史の発展の中で存在することなのだとも明確に話されよく分かりました。学者であることはすごく広い知識と広く物事を見る目がなくてはいけないんですね。先生のノーベル賞の値打ちがますますよく分かりました。おかしな人が平和賞を受けたりしていることに改めて怒りがわきます!!

◎30代・市民…益川先生のお話で科学者は周りの科学者に対し積極的に働きかける必要性を感じました。私自身も科学者のはしくれです。

◎60代・市民…戦争に対する考え、原水爆への危機に対して本日のお話で改めて一市民として真剣に考え、その考えを職場やグループで話し合っていきたいと思いました。益川先生がおっしゃった戦争はなくすることができるというお考えに力強いものを感じ、勇気が出ました。

◎50代・市民…物理の話(クォーク)についての話を聞きたかったが、平和に対する先生の情熱が直接聞けたのはとても感銘を受けた。最後に、抽象化するということが物事の真実が見えるということはとてもわかりやすくよかったです。

◎50代・教職員…実体験が豊富に語られ、優れた科学者を生み出した時代背景も良く理解できた。所々、珠玉のような箴言がちりばめられた内容で有意義であった。シニカルな面とヒューマニズム、この2つの側面をお伺いし、科学者として大変尊敬できる方であると、改めて感じ入った。

◎30代・教職員…「戦争を200年後になくせる」というお話が大変深く印象に残りました。今、この社会に生きる人間として未来の社会の人びとに対して責任を取れるような生き方をしたいと思いました。貴重なお話を聞くことができよかったです。ありがとうございました。

◎理学・D3…とてもよい講演でした。私も研究者のたまごですが、研究と戦争をからめた話を聞いたのは初めてだったので、研究者としての責任を感じました。

◎経済・4年…戦争と科学者の話ですごくおもしろかった。科学者の知識を利用するのではなくてその科学者が変な方向(ちがった方向)に走らないように内に入れるという話がすごく興味深かったです。

◎農・4年…いくら科学が発達してもその使い道を間違えると大変なことになると知らされた。単なる技術として興味があるからというだけで研究するのではなく、その目的を明確にし、どれがはたして平和利用されるのかということについても考えなければと思った。

◎工・2年…現代と益川先生が学生であった時代とで、学生の学問に対する姿勢の違いというのを感じました。今回の講演の内容は、自分の今後の学生生活の指針にしたいと思います。

◎経営・3年…益川先生ご本人の体験のお話から、自分から行動することの大切さと日々の生活の中から多くのことを学び、充実した生活にしていくことの意義を感じました。社会に目を向け、今何が起きているのかと見極める力が重要だと思いました。

◎経営・4年…「原爆を作る、作らないかは政治の問題。市民が決める。科学者が決めることじゃない」とおっしゃっていたのは、ノーベル賞を受賞し、9条の会を主催する科学者が言ったという点において価値があると思いました。

◎発達・4年…益川先生のお話は物理学や科学に関する研究についてのものだと予想していたが、科学者としてあるいは一人の戦争体験者として平和に対する取り組みに関するものが聞けた。最後の質問において、物理学者の意思に反して原爆が使われたことに対し、科学は政治と切り離すことができないという言葉が印象に残った。科学を志すものとしてこの言葉は肝に銘じておきたいと思う。また、理論を作る際の“現象→abstraction→correction”は、今後に生かしていきたい教えだと思った。

◎海事・4年…このような講演を聞いたのは初めてだったのですがとても刺激を受けました。とくに科学者としての視点から戦争について考えるということにとっても刺激を受けました。

(以上、回収アンケート 224 枚の内から一部を紹介)

事務局より：益川先生講演会開催にあたっては多くの方にご援助いただき有難うございました。また、会場でのカンパは、30,025 円と JCB GIFT CARD1,000 円でした。会場費と設営費に使用させていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

4月25日・沖縄県民大会に参加して

和田進(神大教職員九条の会事務局長)

沖縄・普天間基地問題は、鳩山首相の迷走のあげく、社民党の政権離脱、鳩山首相の退陣・菅新政権の登場という事態を迎えている。菅首相は、普天間基地の移設先を辺野古沖とすることを明記した5月28日に発表された日米の外務・防衛4省大臣の声明を踏まえることを明らかにしている。しかしこの共同声明の路線は決して沖縄県民を屈服させることにはならない。既に2ヶ月近く経過したが、4月25日の沖縄県民大会に参加して私を感じ取った2点について報告したい。

大会に行く前、私はなぜ、イエローカード、鳩山政権への警告なのかと疑問を感じていた。鳩山政権の迷走・逆送ぶりは、レッドカードなのではないかという思いです。しかし大会に参加して、沖縄県民のある意味での悲しいまでの思いを実感して参りました。それは、沖縄戦から引き続いた米軍支配、そのもとでの銃剣とブルドーザーによる土地強奪、日本復帰後の変わらぬ基地の押しつけ、1995年から96年にかけての第三の島ぐるみ闘争、その成果としての日米両政府による普天間返還の表明、しかし県内移設の条件付き、14年間にわたる辺野古での闘い、そうした経緯の中で飛び出した昨年8月の鳩山民主党代表の「最低でも県外」という表明。この発言への沖縄県民の「期待」、しかし民主党政権発足後の事態は改めて裏切られつつあることへの「怒り」。そうした状況の中でも、沖縄県民が求める、鳩山民主党政権は「公約を実現しろ」との切ないまでの「イエローカード」。イエローカードは、普天間の返還に対する切ないまでの県民の思いだと思いました。同時にそこには公約を実現しないのであれば、そのときには、レッドカード、鳩山政権の退陣を含めて普天間基地撤去に向けて闘うという怒りの意思表示だと思いました。今、沖縄は、それまでの切ないまでの「期待と不信」から、「怒り」一色に染め上がってきています。

もう一つは、普天間基地移設問題が米軍基地撤去へと転じつつあることです。最後まで参加に躊躇していた仲井真知事は「私は日米同盟を肯定するが、沖縄の負担は応分を遙かに超えている。沖縄への差別だ」と述べました。しかし同時に沖縄本島の20%が基地にしめられ、75%の米軍専用基地が集中している沖縄の闘いは、米軍基地の存在の根源となっている日米安保条約と憲法九条との非和解的矛盾を見つめるという地平を切り開きつつあります。県民大会の壇上からの訴えの中でひととき大きな拍手が巻き起こったのは普天間基地が存在する宜野湾市の伊波洋一市長の発言でした。伊波市長は次のように語りました。「普天間飛行場の危険性除去は絶対に必要だが、県内移設の条件付きでは永遠に解決できない。あくまで米国が代替施設を県内に作れと言いつけるのであれば、我々は沖縄から米軍の撤退を求めなければならなくなる。」83%が嘉手納基地に占拠されている嘉手納町長も日米安保の見直しを語っています。毎日新聞と琉球新報の沖縄県民に対する合同世論調査では、昨年11月調査と本年5月調査を示すと以下のようになっています。

日米安保条約について、①維持すべき17→7% ②平和友好条約に改めるべき42→55% ③破棄すべき11→14% ④多国間安保に改めるべき15→10%。安保維持派は1割にも満たず、7割近くが現行安保に基づく基地の撤去を求めている。5月調査では米海兵隊の駐留は「必要ない」が71%を占めている。

鳩山内閣の迷走は、沖縄の米軍基地問題を全国民の意識にのぼらせ、なぜ米軍基地を抱えることが必要なかを考えさせる契機となっている。これは鳩山内閣の最大の「功績」である。安保・米軍基地を考えることは、9条を考えることである。

日米安保改定50年の本年、日米安保と憲法九条の根源的矛盾を国民に問いかけることを可能にする状況が出現してきていると思います。

事務局より：

- 1) 2010年度の「神戸大学教職員九条の会総会」は秋に延期します。
- 2) 今年度会費が未納の方は納入をお願いします。



T.A